

平成 30 年 10 月 6 日

## 鹿大「進取の精神」支援基金学生海外派遣事業（長期派遣留学）留学終了報告書

鹿児島大学長 殿

鹿大「進取の精神」支援基金学生海外派遣事業（長期派遣留学）実施要項に基づき、下記のとおり報告します。

## 記

## 1. 報告者情報

|                |                     |    |   |
|----------------|---------------------|----|---|
| 所属/学年          | 農学部 国際食料資源学特別コース 3年 | 性別 | 女 |
| 卒業/修了<br>予定年月日 | 2020年3月             |    |   |

## 2. 留学の概要

|  |                |           |       |            |
|--|----------------|-----------|-------|------------|
| 留学期間   | 開始年月日          | 2018年4月8日 | 終了年月日 | 2018年8月31日 |
| 留学のタイトル  | 農業を持続性のあるビジネスへ |           |       |            |
| 留学の目的と概要（実践活動部分には、下線を引いて下さい）（700字程度）   |                |           |       |            |
| <p>3K（きつい、汚い、かっこ悪い）と連想される農業を、稼げるかっこいい仕事に変えることが私の夢である。経済的にも精神的にも豊かな生活を送っている農家は世界的に見ても珍しくはなく、農業はあらゆる利益を生み出すことが可能な産業であることは間違いない。しかしながら、農業で十分な収益を上げられず貧困に苦しんだり、都市部で農業以外の仕事で収入を得たり人々がいるのも事実である。私はシンガポールを拠点とする、日系企業の海外進出をサポートする企業で半年間インターンシップに参加し市場調査等の業務を遂行する中で海外の商流や物流チャンネルを学びんできた。これを活かして、販売面で農業に関わりたいと強く思った。もし農業が持続性のあるビジネスとして成り立てば、稼げる・かっこいい、みんなの憧れの仕事になる。さらに農業は社会を変えるインパクトのある産業である。魅力ある農産物の生産地が都市部、海外から注目の的となれば、地域の活性化に繋がる。地方の人口問題が深刻な日本ではとりわけインパクトが多いだろう。そこで、「継続性のあるビジネス」と「社会へインパクトを与えるビジネス」を学びたいと思い、ケニアのソーシャルビジネスを行う企業の下でインターンに参加することを決意した。ここでは貧困に苦しむ大豆農家の生産から卸までのサプライチェーン全体をマネジメントする事業に携わる。具体的にはケニアで4か月間、農家へ品質管理や在庫管理などの生産指導を行い、高品質な大豆を作り、提携先の工場へ適正な市場価格で買い取ってもらう活動を行う。現在は加工品の生産は行われていないが、保存性と付加価値のある加工品を提案し市場で受け入れられるか検証する。このような活動を行うための十分な語学力をつけるために2か月間はフィリピンの語学学校に通う。</p> |                |           |       |            |

## 3. 受入れ機関情報及びスケジュール

## (1) 受入れ機関情報

|      |         |         |         |
|------|---------|---------|---------|
|      | 1ヶ所目の機関 | 2ヶ所目の機関 | 3ヶ所目の機関 |
| 国・地域 | フィリピン   | ケニア     |         |

|               |       |           |  |
|---------------|-------|-----------|--|
| 都市名           | セブ    | ミゴリ       |  |
| 機関名<br>(英語)   | CPILS | Alphajiri |  |
| 機関名<br>(日本語)  | シピルス  | アルファジリ    |  |
| 受入れ<br>機関 URL |       |           |  |

(2) 留学期間中のスケジュール 留学月数 ( 5 ) ヶ月 / 授業料申請 (有・無)

| 年 月    | 留学先機関     | 国・地域     | 主な活動  |
|--------|-----------|----------|---|
| 2018/4 | CPILS     | フィリピン・セブ | 語学学校でインターンシップに必要な英語力を身に着ける。                                     |
| 5      | Alphajiri | ケニアミゴリ   | オフィス周辺で野菜の価格調査。受け入れ企業の主な事業である大豆の買い取り。                           |
| 6      | 〃         | 〃        | 農村部に滞在しながら野菜の価格調査を行い関連するプロジェクトの立ち上げ。                            |
| 7      | 〃         | 〃        | 農村部に滞在しながら酪農の調査を行い関連するプロジェクトの立ち上げ。                              |
| 8      | 〃         | 〃        | 農村部に滞在し養蜂の調査をしながら関連するプロジェクトの立ち上げ。受け入れ企業の主な事業であるガーリックの生産についても指導。 |
|        |           |          |   |

(3) 参加したプログラム (有・無) (複数選択可)

| 本学の協定校交換留学        | 名称記入 | 本学の協定校交換留学以外のプログラム | 名称記入 |
|-------------------|------|--------------------|------|
| 本学以外の機関による留学プログラム | 名称記入 |                    |      |

4. 留学の成果及びその測定方法 (300 字程度)

| 成果発表 (論文、作品等)   | 単位取得 | 外国語能力 | その他 | ○ |
|---|------|-------|-----|---|
| <p>私がインターンに参加する 4 か月間の間に、貧困農家の収入と生活に対する幸福度がどれだけ変化したか数値を出して評価する。収入と幸福度の変化をソーシャルインパクトに設定し、私に関わる農業がどれだけ社会に影響を与えるかを測る。また、帰国後に鹿児島県で実施する「薩摩芋の収穫体験」と「芋蜜の工場見学ツアー」によって、提携先の唐芋農場にどれだけ収益の変化が出たかを評価する。この 2 つのアクティビティによりどれだけ南九州市に人を呼び込めたか、体験前後で農業のイメージがどのように変化したかを調査し、こちらも数値に出して評価する。語学力に関しては、帰国後に TOEIC を受験し 850 点以上のスコアを目指す。</p> |      |       |     |   |

※当てはまる項目に○を付し、具体的に説明して下さい (複数回答可)

5. 上記 4. も含め、留学の目的がどのように達成できたか、留学で得たことは何か記述して下さい。(500 字程度)

当初目指していたカッコいい農業とは対照的に、インターン中は非常に泥臭く農業に関わった。当初は、主要事業である大豆の事業に関わる予定だったが、農業から持続的に安定した収益を得られる仕組みを作りたい、という願望があり、代表に相談した結果、新規事業立案を手掛けることになった。その中で事業計画書や契約書の作成などの貴重な体験を数多くしたが、この留学での一番の学びは、現地の人と生活しないと海外でビジネスはできないことに気づけたことであつた。ケニアでは約3か月間、一人で電気も水道もない農村部で現地の人と生活した。彼らと生活する中で気づいたことは、全てがそこで生活しないと理解できないことであつた。彼らがなぜ貧困に陥っているのか、その本質的な理由は今を生きるのが精いっぱい未来のための投資ができないこと、それに尽きると気づいた。この本質的な問題の解決を目指しながら、カッコいい稼げる農業の確立を目指して流通、酪農、養蜂に関する3つの事業を立ち上げた。特に養蜂の事業は農家の収入面を向上させる高い可能性が期待されている。残念ながら滞在中に結果を見ることが出来なかったが、私の作った事業は会社の代表を中心にインターン生や社員に引き継がれ現在も進行中である。これらの新規事業立案を通して「継続性のあるビジネスと社会へインパクトを与えるビジネスの作り方を学びたい」という留学目的はある程度達成できたのではないかと考えている。

6. 留学後に行う鹿児島地域を活性化する活動について述べてください。(500字程度)

1年前からお世話になっている企業の唐芋農場で生産される薩摩芋と加工品である芋蜜の収益を上げるために国内外でブランディングや販路開拓を行う予定である。また、唐芋農場の所在地、南九州市に人を呼び込むために、「薩摩芋の収穫体験」と「芋蜜の工場見学ツアー」を実施する。少子高齢化、農業従事者の高齢化という問題に直面する南九州市に若者を呼び込み、主要産業である農業を体験してもらうことで農業への興味・関心を起こし、農業を将来の選択肢の1つとして考えてもらうきっかけを作る。芋蜜の工場見学ツアーは五感で感じられる試食付きのツアーとし、芋蜜の認知度向上と芋蜜の伝統継承を目指す。このツアーを新規事業にすることを旨とし、その先駆けとなるように今回の事後活動を行う予定である。このツアーによって武家屋敷を始めとする周辺観光地への来客も見込め、さらに観光客は鹿児島県の地域の魅力を体感することができるだろう。これら2つのアクティビティは、県内外の多くの人を巻き込んで、鹿児島の魅力伝えることのできる機会になるだろうと考えている。

7. 留学を今後の自分の生き方にどのように活かすか、留学成果を活用して将来鹿児島地域に貢献できることは何か記述して下さい。(500字程度)

留学中は農家の収入向上という1つの目標に対して真摯に向き合った。目標を達成するのにこれほど苦労したことも、真剣に向き合えたことも過去に一度もなかった。実際、事業に取り組む中で挫折しかけたことが何回もあつたが、その度に私を救ったのが「可能性のあるものはなんでも試してみればいい」という代表の言葉だつた。挑戦しないと世界は何も変わらないこと、そして出来なかったら次の手段を考えればいいということを知り、物事を最後までやり遂げる癖がついた。これらの経験と気づきを活かして、今後も自分のやりたいことに愚直に向き合い続けるつもりだ。また、私は自分の専門でもある農業に強い関心があり、将来は収益性の高い農業を確立しながら地方創生に関わるのが夢である。この留学ではフィリピンでの1か月の語学学校生活のあと、その英語力を生かしてケニアの農村で生活し、ビジネスを通して社会的課題を解決する企業の下で現地の社員と働き事業立案をする経験をした。ここで経験したことを生かして、将来は少子高齢化と人口減少という社会的課題に向き合いながら、農業というビジネスを通じて鹿児島に活気を作ることに貢献できるのではないかと考えている。

平成 30 年 11 月 29 日

鹿大「進取の精神」支援基金学生海外派遣事業（長期派遣留学）  
留学後地域活性化報告書

鹿児島大学長 殿

鹿大「進取の精神」支援基金学生海外派遣事業（長期派遣留学）実施要項に基づき、下記のとおり報告します。

## 記

## 1. 報告者情報

|                |                     |    |   |
|----------------|---------------------|----|---|
| 所属/学年          | 農学部 国際食料資源学特別コース 3年 | 性別 | 女 |
| 卒業/修了<br>予定年月日 | 2020年 3月            |    |   |

2. 留学後の鹿児島地域を活性化する活動の概要を、留学の成果との関係がわかるように記述してください。（700字程度）

【活動のタイトル】鹿児島と世界を繋ぐ！あめんどろの工場見学ツアー

【活動の期間】 30年11月29日～ 30年11月 29日

【活動の概要】

留学後、主に2つの活動を行った。1つ目は、提携企業である唐芋農場の見学ツアーを開催し、留学生に鹿児島の農業の魅力を伝える活動を行った。2つ目に、留学を通して得た「稼げる農業」の知識を共有し、同社が生産する農産物加工品、「あめんどろ」の販路拡大に向けた今後の取り組みについて意見交換した。（あめんどろとは南九州市穎娃町で伝統的に生産されていた芋蜜のことである。）

どちらの活動も今後継続して実施予定であり、今後の企画も議論した。

1つ目の工場見学ツアーでは、主に留学生に鹿児島の農業の魅力を伝えることを目的に実施し、唐芋農場にある、焼耐用のサツマイモ加工工場とあめんどろ加工工場の2つを訪問した。同行した留学生は大学院農学研究科博士課程のベナン出身の留学生である。カシューナッツの栽培について研究しているが、出身国ベナンでもサツマイモが生産されていることから、同企業に興味を持ち工場見学に参加した。

この工場見学ツアーでは主に、工場で働く従業員の方にお話を聞きながら、どのような過程でサツマイモを加工し、貯蔵しているのか技術的な知識を得ることができた。留学生の出身国では、適切な加工工場がないために収穫後のサツマイモの多くが破棄されてしまう問題がある。そこで、サツマイモ貯蔵に 適した温度や湿度管理について詳しく話を聞くこととなった。私は今回の留学で1か月

間、フィリピンの語学学校に通ったが、そこで身に着けた語学力を通訳という形で生かすことができた。

2 つ目に、ケニアでのインターンシップで得た「稼げる農業」の知識を共有した。私はインターン中、流通を効率化する事業と、大きな収益性(現在の収入の 180%)を見込める事業を立ち上げた。どちらの事業でも、事業を回すために必要なパートナー探しを行い、販売ルートと生産ルートの両方を確立した。そこで、あめんどろでも同じような方法で収益化を図れるのではないかと考え、意見を代表の別府さんに共有した。今後も唐芋農場を訪問し、稼げる農業の知識を生かしながら、あめんどろの販路拡大に携わる予定である。

### 3. 鹿児島地域を活性化する活動の成果と今後の課題と展望について述べてください。(700 字程度)

事後活動は、あめんどろの認知度向上に繋がる今後の活動の第一歩となった。代表の別府さんは、「砂糖や塩のように、どの家庭にも 1 袋のあめんどろがある未来」を目指している。今後はこのビジョンの達成に向けて、私の留学で得た「稼げる農業」の知識を活かし、国内外問わず様々な場所であめんどろの普及に携わる。具体的には留学中に経験した、自社製品を販売するためのパートナー探しや、流通効率化の知識を活用する予定である。

また、留学生にあめんどろの新たな使い方などを提案してもらった。異なるバックグラウンドを持つ人の意見により新たなアイデアが生まれると考えたからだ。例えば、海外ではベジタリアンやビーガンのような健康志向の人が増えてきている。そこで、砂糖の代わりにあめんどろを提案することで新たなビジネスチャンスに発展するのではないかと意見が出た。

さらに、工場見学ツアーは留学生にとっても大変貴重な機会となったようだ。彼女は帰国後に農業関連のビジネスを始めるつもりである。今回の訪問で得た鹿児島のサツマイモ加工品の知見を帰国後に自国でも生かす予定だと聞いている。彼女の出身地ベナンでは貯蔵技術や保存設備がないために毎年多くのサツマイモが破棄されている。あめんどろのような加工品を作ることでフードロスをビジネスに変えたいと話している。

今後は、唐芋農場の工場見学希望者や、農業体験希望者を積極的に受け入れることで、あめんどろの認知度向上につなげる予定である。このような一連の活動を通して今後も継続的に鹿児島の生産者の魅力や、かっこいい農業を伝えられるのではないかと考えている。